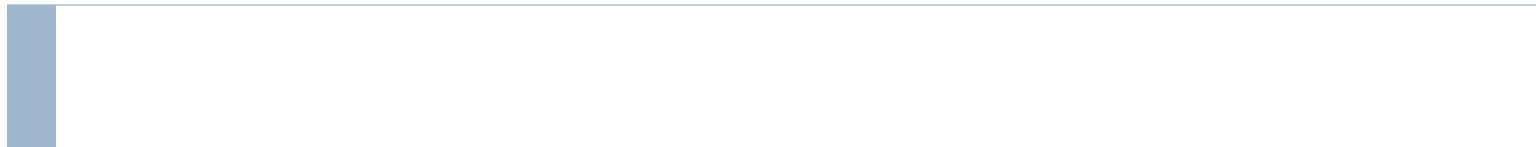
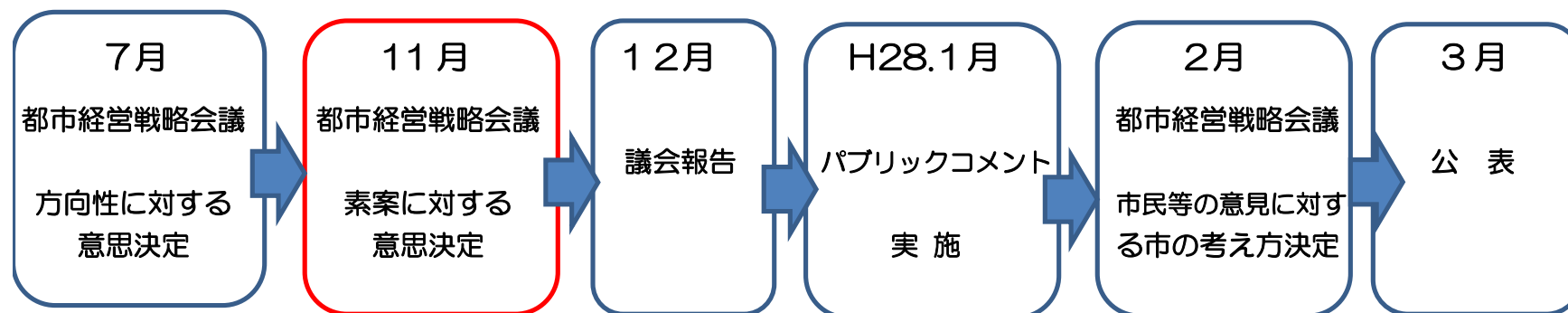


平成27年11月12日(木)
都市経営戦略会議 資料
スポーツ文化局 スポーツ部 スポーツ振興課

- 「さいたま市スポーツ振興まちづくり計画 改訂版」 (素案) について
- 「さいたま市国際スポーツタウン構想」 (素案) について



今後のスケジュールについて



I 「スポーツ振興まちづくり計画 改訂版」(素案) について



1. 平成27年第4回（7月14日） 都市経営戦略会議審議結果

議題 「さいたま市スポーツ振興まちづくり計画」の中間見直し(案)について

見直しの背景

- ①計画策定後5年間のスポーツ環境の変化を反映
 - ・国際的大規模スポーツイベントの開催・スポーツに関する新たな考え方
 - ・2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催決定 など
- ②さいたま市スポーツ振興審議会答申
- ③数値目標に対する達成状況の推移

見直しのポイント

- ①スポーツの定義をより浸透させるための取組を行う
- ②重点施策に本市のスポーツに関する新たな考え方を加える
 - ◆大規模スポーツイベントの開催
 - ◆国際スポーツタウン構想の推進

2. 現行計画の評価及び改訂における 主な変更点について

(1) 現行計画の評価

① 新しい公共を担う総合型地域スポーツクラブ活動の推進・支援

⇒現在、12クラブが個性ある様々な形態により地域に根差した活動を行っている。人材、場所、資金など様々な課題を抱えながら運営されており、総会員数は減少傾向にある。(H22年5,538人からH27年3,762人) 引き続き活動に対する支援が必要である。

② スポーツ施設の整備・運営に関する指針の策定

⇒市内のスポーツ施設に対する市民からの要望がある。「公共施設マネジメント計画」との整合を図る等の必要があるが、スポーツ施設の整備・運営に関する指針の早期策定により、市民のスポーツ環境の整備が求められる。

③ スポーツコミッションやスポーツボランティアの活用などによるスポーツイベントの開催

⇒スポーツコミッションの設置により、大規模国際スポーツ大会・イベントを誘致・支援し、地域経済の活性化や観光・交流人口の拡大に傾注。スポーツボランティアについては、その登録制度であるスポーツボランティアバンク登録者数の増加を図れなかったため、登録制度の充実によるスポーツボランティア確保及びスポーツボランティア活用によるスポーツ大会・イベントの開催支援が求められる。

④ ウォーキング・ランニング・サイクリングと観光資源の連携

⇒だれもが楽しめ、健康増進にも効果があるウォーキング・ランニング・サイクリングを促進するため、歩車分離道の整備、ウォーキングマップの作成、ウォーキングイベントの開催など、スポーツによる市内周遊性を推進し、日常気軽にできるスポーツ環境の推進に努めた。
また、大規模な参加型イベントを定期的に開催し、市民の参加を促進。さらに、イベント開催にあたり、本市の「食」をPRする「さいたまるしえ」の同時開催により、交流人口の増加や企業・関連団体と地域社会の連携強化、地域経済の活性化を促進した。今後は、「スマートウェルネスさいたま」と連携した取組が望まれる。

(2) 改定における主な変更点

① 市民のスポーツ実施率向上に向けた取組を推進にあたり、「スポーツの定義」をより浸透させる記載内容とした。

② 重点施策について、従来からの4項目を見直し、新たに2項目を追加、計6項目とした。

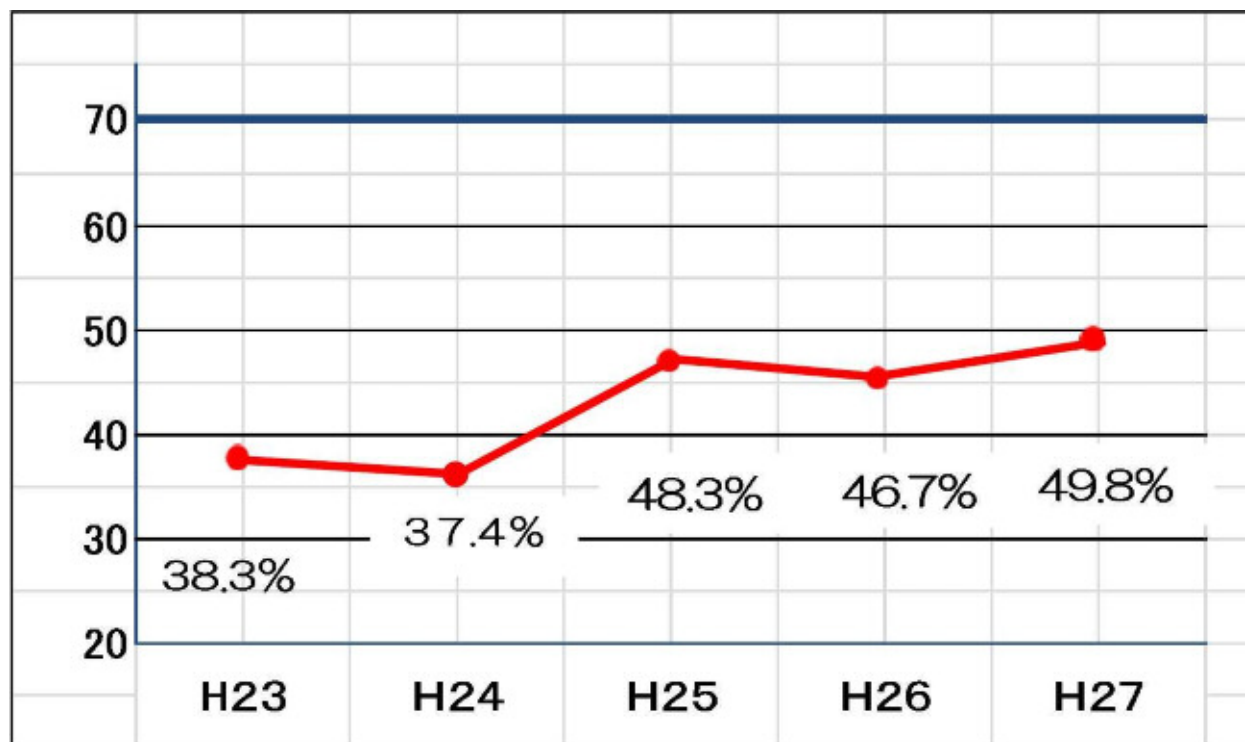
③ 連携6分野に関連する施策・事業として、従前の75施策・事業に23施策・事業を追加、9施策・事業を削除し、計89施策・事業(再掲含む)とした。

3. 平成27年度スポーツに関する 市民意識調査結果

市民のスポーツ実施状況

①成人の週1回以上のスポーツ実施率

平成27年度49.8%となり前年比3.1ポイント上昇したが、平成32年度までに70%を達成するにはまだ開きがある。



②よく行うスポーツ

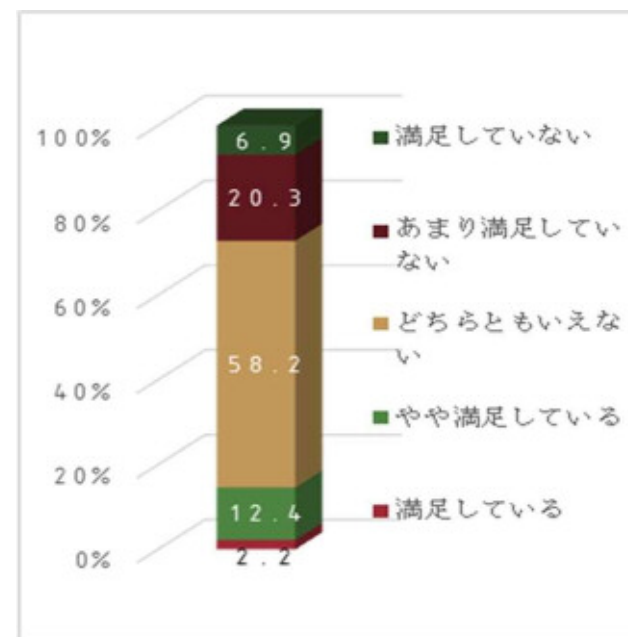
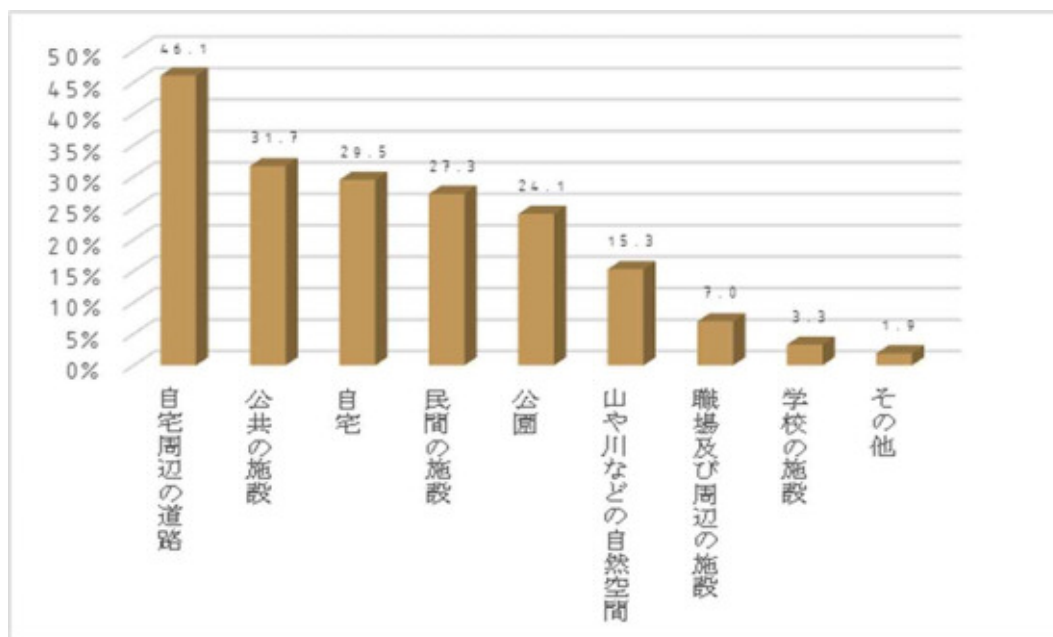
ウォーキング・散歩など、日常、気軽に行うことのできるスポーツが市民に親しまれている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成27年度 (n=2,064)	ウォーキング・散歩	日常生活 (通勤・買い物等)における徒歩・自転車使用等の身体活動	ジョギング・ランニング	ヨガ	筋力・ウエイトトレーニング
	37.6%	31.4%	13.8%	9.0%	8.3%
平成22年度 (n=2,079)	ウォーキング・散歩	ゴルフ	体操(軽い体操・ラジオ体操)	筋力・ウエイトトレーニング	ジョギング・ランニング
	33.2%	15.2%	13.7%	10.3%	10.1%
平成15年度 (n=2,513)	ウォーキング・散歩	ゴルフ	スイミング	体操(軽い体操・ラジオ体操)	テニス
	34.8%	15.9%	15.4%	11.1%	9.3%

③スポーツを行うときに利用する場所

スポーツを行うときに利用する施設は、「自宅周辺の道路（46.1%）」が最も高くなっている。次いで、「公共の施設」（31.7%）、「自宅」（29.5%）、「民間の施設」（27.3%）があげられている。

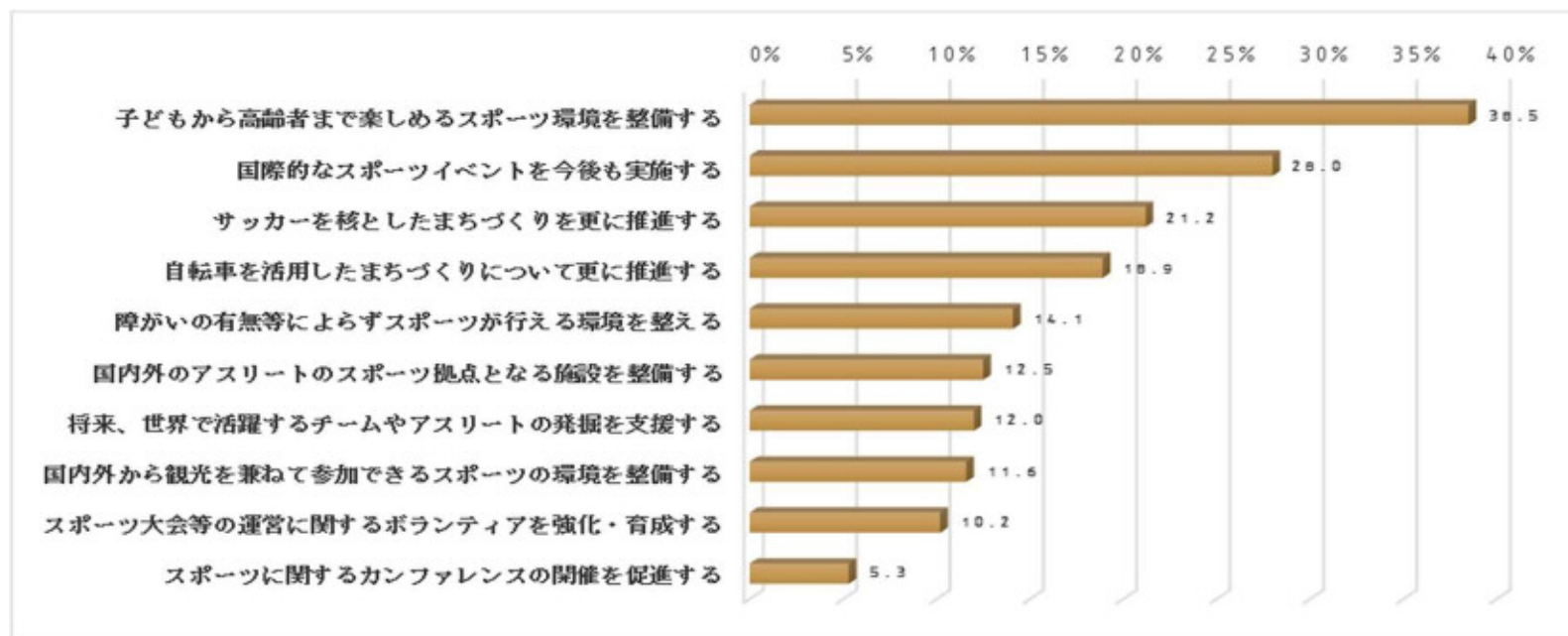
また、本市のスポーツ施設の設置状況に満足している人の割合（「満足している」と「やや満足している」の合計）は14.6%です。



④今後のスポーツ振興によるまちづくりへの期待

子どもから高齢者まで、また障がいの有無にかかわらず楽しめる生涯スポーツ環境の整ったまちづくりが期待されている。

また、国際的なスポーツイベントを今後も実施することについても期待が寄せられている。



4. 健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」を実現するための数値目標の状況

①成人の週1回以上のスポーツ実施率



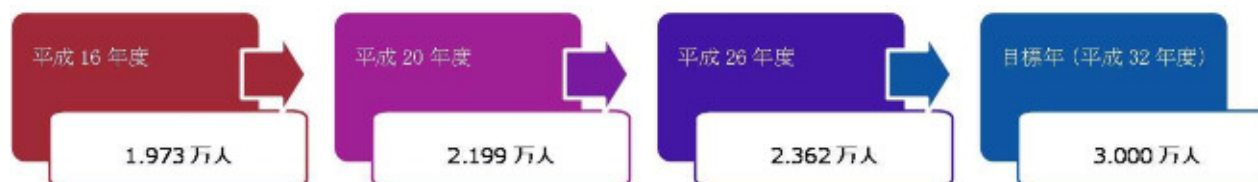
②児童・生徒の週1回以上のスポーツ実施率(学校の体育の授業を除く)



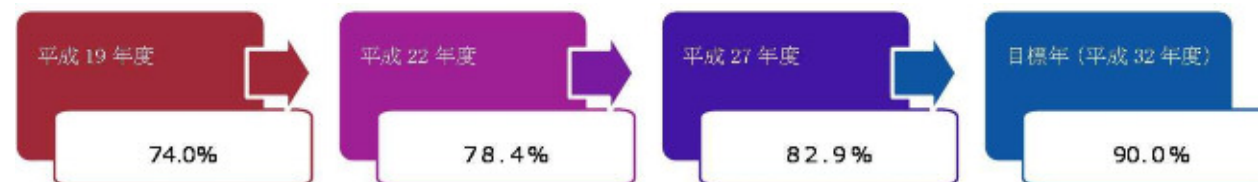
③市民のスポーツボランティア参加率



④スポーツ観戦を含む年間来訪者数



⑤本市の住み心地が良いと考える市民の割合



5. スポーツの定義と意義

現行計画

スポーツの定義

本計画における「スポーツ」とは、「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」に定義するように、競技スポーツ、レクリエーション（キャンプ活動やその他の野外活動等も含む）から、健康維持のための軽い運動（散歩やラジオ体操等）まで、様々な身体活動のことを指します。

また、「生涯スポーツ」とは、体力、年齢、技術等に応じて、生涯にわたって継続的にスポーツをすることを指します。

改定案

スポーツの定義は変更せずに、図表を使用して具体的な表現で定義を浸透させる

日常生活での通勤や買い物も、体を動かすことを意識して継続すれば、消費カロリーでみると同じ効果があることに着目し、日常の様々な場면을スポーツとして捉え、健康・体力づくりへと結び付けていく



6. 重点施策の再検討

7月の都市経営戦略会議での説明

- ①「さいたま市国際スポーツタウン構想」の推進
- ②発信力のある大規模スポーツイベントの開催
- ③地域のニーズに対応した総合型地域スポーツクラブの活動の推進・支援
- ④スポーツ施設の効率的・効果的な整備・運営に関する指針の策定・推進
- ⑤スポーツコミッションやスポーツボランティアを活用したスポーツイベント支援
- ⑥ウォーキング・ランニング・サイクリングなど「スマートウエルネスさいたま」の推進

再検討

◆平成27年度第1回スポーツ振興審議会 計画改訂（素案）についての意見◆
「スポーツの発展がシティセールスへ繋がる観点が強くなっており、市民に広くスポーツを振興する観点が薄くなっている」

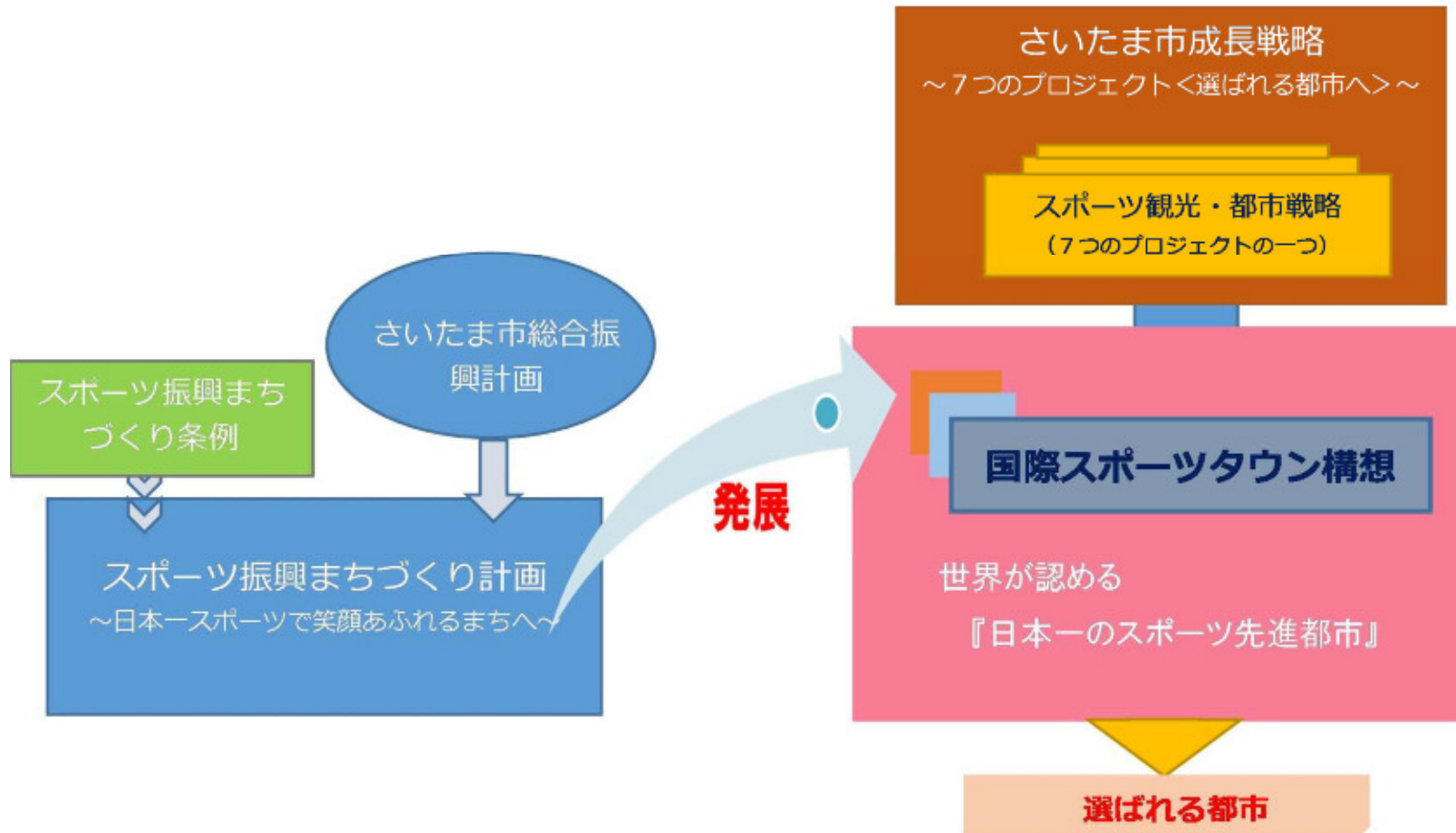
- ①ウォーキング・ランニング・サイクリングなど「スマートウエルネスさいたま」の推進
- ②スポーツ施設の効率的・効果的な整備・運営に関する指針の策定・推進
- ③地域のニーズに対応した総合型地域スポーツクラブの活動の推進・支援
- ④スポーツコミッションやスポーツボランティアを活用したスポーツイベント支援
- ⑤発信力のある大規模スポーツイベントの開催
- ⑥「さいたま市国際スポーツタウン構想」の推進

7. 新たに追加する施策・事業

連携分野	基本施策	施策・事業数(再掲含む)				新規の施策・事業
		改訂前	削除	新規	計	
(1)教育	①子どもたちのスポーツ振興	8	2	2	8	将来世界で活躍するチーム、アスリート等の発掘支援/少年少女サッカー教室の開催
	②スポーツをする空間の整備・向上	4	0	1	5	スポーツを通じた地域住民との交流促進
(2)文化	①さいたまスポーツ文化の創出・醸成	6	0	7	13	「女子サッカーの聖地」化の推進/プロ・トップスポーツチームなどとの連携強化/「さいたま国際スポーツタウン構想」の推進/2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の円滑な開催への支援/発信力のある大規模スポーツイベントの開催/2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた国際スポーツ交流の推進/自転車利用の促進
	②スポーツと文化・芸術の連携	3	1	0	2	—
(3)環境	①環境に優しいスポーツの場の整備	3	0	0	3	—
	②スポーツを通じた環境意識の啓発	1	0	0	1	—
(4)経済・観光	①大規模イベントの実施・支援	3	0	2	5	2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の円滑な開催/発信力のある大規模スポーツイベントの開催
	②地域経済や市内観光とスポーツの連携	2	0	2	4	MICEと連携したシティセールスの推進/「さいたま国際スポーツタウン構想」の推進
(5)健康・福祉	①多様な世代・人のスポーツ振興	31	6	6	31	「スマートウエルネスさいたま」の推進/生活習慣病予防事業及び特定保健指導事業の推進/ノーマライゼーションカップの開催/自転車利用の促進/少年少女サッカー教室の開催/サイクルイベント等の開催
	②スポーツをする空間の整備・向上	8	0	1	9	公認グラウンド・ゴルフ場の整備
(6)都市計画	①スポーツ施設の整備	4	0	2	6	「さいたま国際スポーツタウン構想」の推進/公認グラウンド・ゴルフ場の整備
	②スポーツと連携したまちづくり	2	0	0	2	—
合計		75	9	23	89	

Ⅱ 「さいたま市国際スポーツタウン構想」(素案)について

■ 国際スポーツタウン構想の位置付けについて



■ 国際スポーツタウン構想の構成について

第1章 国際スポーツタウン構想の背景・目的

- (1) 国際スポーツタウン構想の背景
- (2) 国際スポーツタウン構想の目的

第2章 国際スポーツタウン構想にかかる基本理念

- (1) 国際スポーツタウンの定義
- (2) 目指すべき都市像
- (3) 実現に向けた基本方針

第3章 施策展開にあたっての課題及びスポーツ・トレンド

- (1) 施策展開にあたり解消すべき課題
- (2) 施策展開にあたり取り入れたいスポーツ・トレンド

第4章 実現に向けた施策展開

- (1) 施策の体系
- (2) 施策の内容

まとめ 国際スポーツタウン構想の推進に向けて

■ 各章における内容について

第1章 国際スポーツタウン構想の背景・目的

(1) 国際スポーツタウン構想の背景

○スポーツ振興の設計図制定

…さいたま市スポーツ振興まちづくり条例及び計画

○スポーツによる地域経済活性化のエンジン始動

…さいたまスポーツコミッション

○これまでの国際的スポーツイベント

…2002 FIFA ワールドカップ日韓大会、FIFA U-20女子ワールドカップジャパン2012

さいたまシティカップ、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム、さいたま国際マラソン

○これからの国際的スポーツイベント

…2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会(サッカー、バスケットボール)

(2) 国際スポーツタウン構想の目的

本市の強みであるスポーツを生かしながら、世界から注目される「スポーツ先進都市」となることで、都市の価値及び機能性・利便性を高めながら、持続可能な発展を遂げるまちをつくり、これをもって、**本市が「選ばれる都市」となる**ことを目的とする。

第2章 国際スポーツタウン構想にかかる基本理念

(1) 国際スポーツタウンの定義

さいたま市がめざす「スポーツ振興まちづくり」の視点によるスポーツを基軸とした都市像を実現するうえで、国内において際立つ存在となり、世界から注目されるスポーツ先進都市となることを、ここでは「国際スポーツタウン」と定義する。

国際スポーツタウンとは

世界が認める『日本一のスポーツ先進都市』

市内にある特定のエリアを「スポーツタウン」と呼ぶのではなく、さいたま市が持つスポーツ・ポテンシャルの総力をもって、さいたま市全体を「国際スポーツタウン」と称していく。

(2) 目指すべき都市像

「国際スポーツタウン」のベースには、市民からトップレベルまでスポーツが大変盛んで、様々なスポーツシーンが日常的にあふれているといった、スポーツのまちの姿があり、その形成は「さいたま市スポーツ振興まちづくり計画」が担っている。「国際スポーツタウン構想」は、このベースの部分を更に発展させ、世界が認める都市へ飛躍させる役割を担うものであり、このことから導かれる目指すべき都市像を以下に定める。

「国際スポーツタウン」の都市像

- ①市民からトップレベルまで多くのアスリートが集う都市
- ②国際的スポーツ競技の開催環境を持つ都市
- ③スポーツ関連イベントを通じてブランド価値を創出する都市
- ④スポーツと地域経済が連携した都市

(3) 実現に向けた基本方針

4つの目指すべき都市像の実現に向けて、次の5つの基本方針に沿って施策を展開していく。

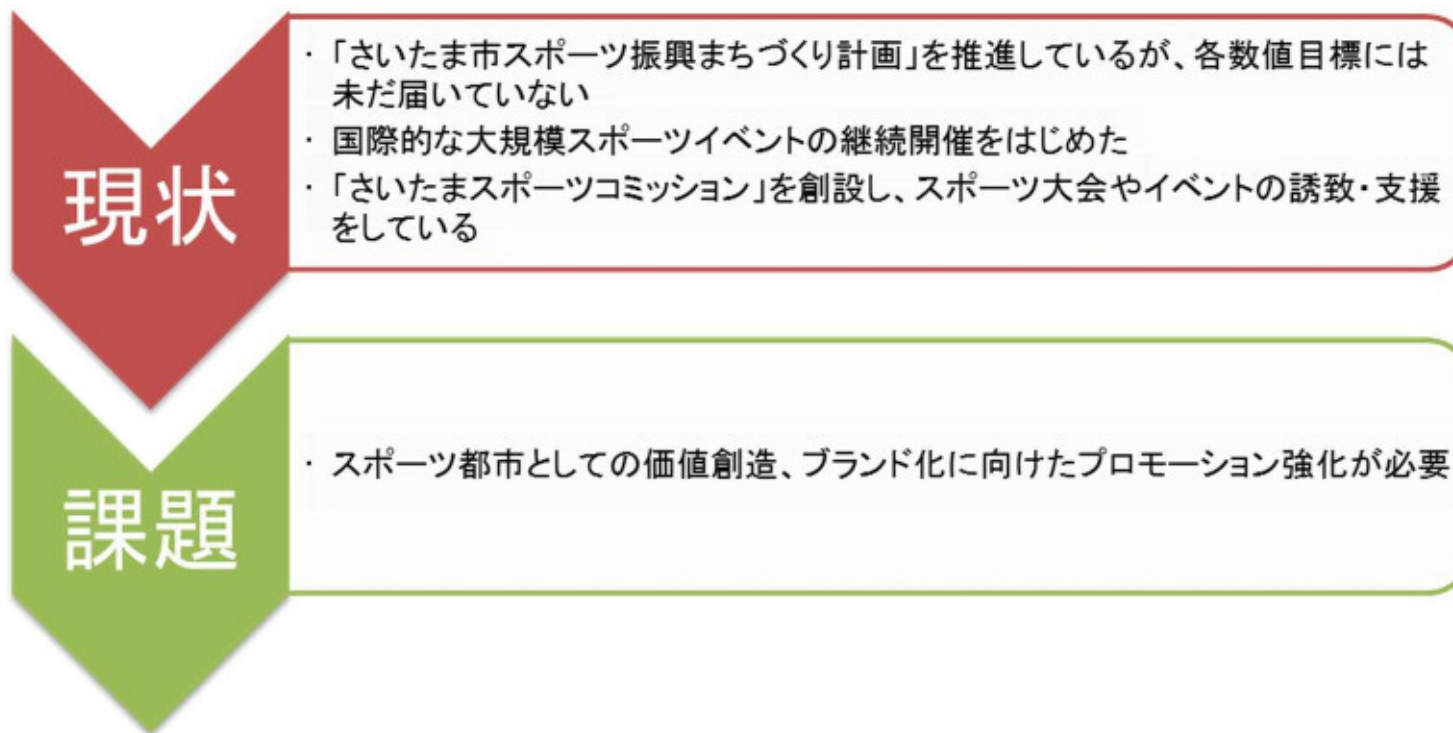
基本方針

- ① トップアスリートと市民スポーツ双方を振興する
- ② 価値向上につながるイベント運営を実現する
- ③ スポーツを支える環境を整備する
- ④ 現代的なスポーツの基礎を学ぶ機会を創る
- ⑤ 「日本一のスポーツ先進都市 さいたま市」を世界へ認知させる

第3章 施策展開にあたっての課題及びスポーツ・トレンド

(1) 施策展開にあたって解消すべき課題

① 本市スポーツ施策における現状と課題



②市内スポーツ施設における現状と課題

現状

- ・市内には、県及び市所管によるスポーツ施設が整備され、各種のスポーツイベント・大会やスポーツ興行でも使用されている。
- ・スポーツを行っている市民からは施設数の増加が求められている。

課題

- ・大規模スポーツイベントの会場としては、県所管の施設に頼らざるを得ない状況にある。
- ・本市所管のスポーツ施設の一部には老朽化の進行がみられる。
- ・「さいたま市公共施設マネジメント計画」では、公共施設の総量削減方針が打ち出されている。
- ・アフタースポーツのための施設・設備の充実、合宿やキャンプを想定した宿泊・滞在機能が不足している。

③市内スポーツ関連イベント開催における現状と課題

現状

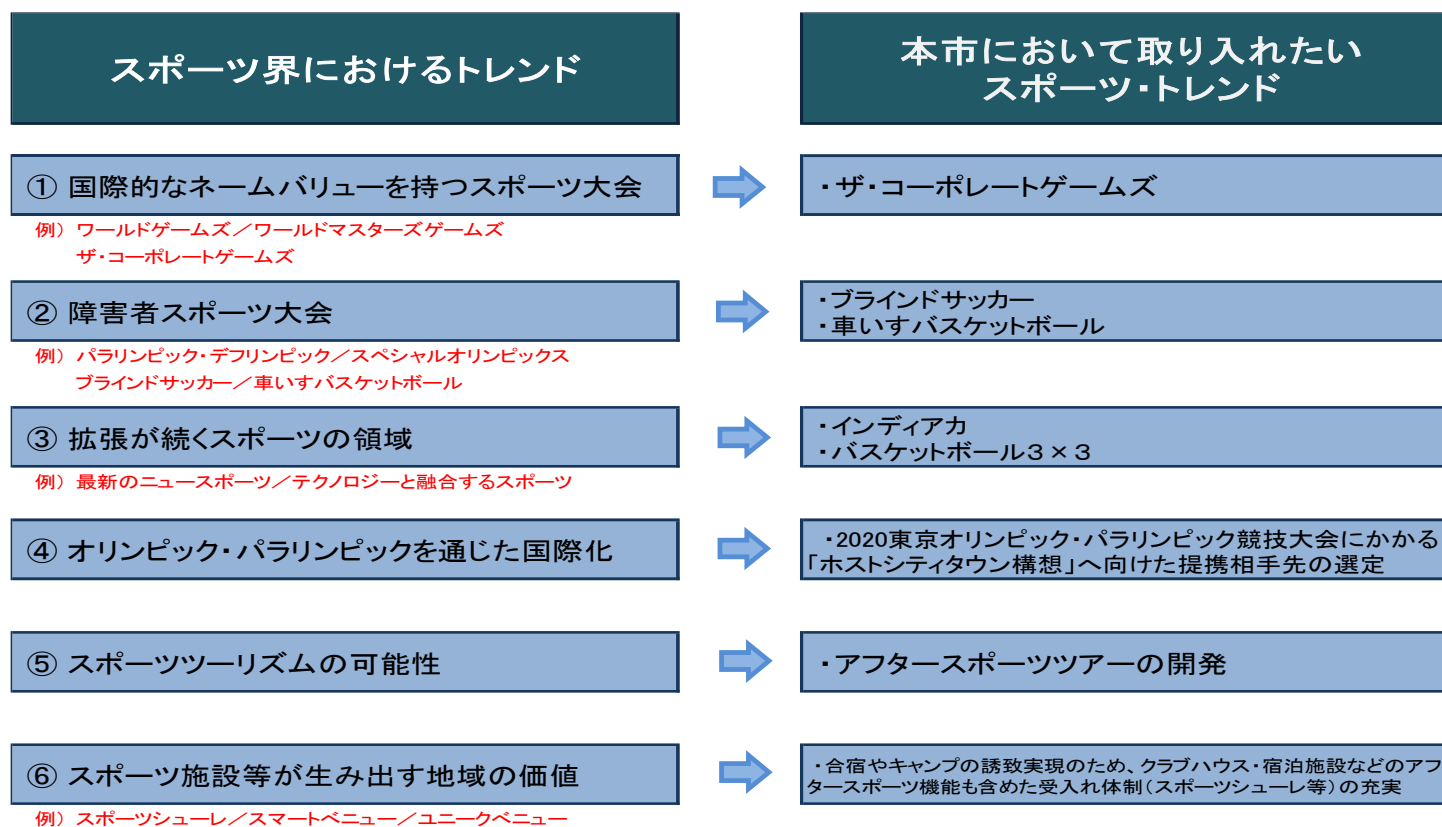
- ・ これまで多くの国際的スポーツ競技・スポーツイベントが開催されてきた。
- ・ 国内大会では、日本チャンピオンを決定する大会も開催されている。
- ・ 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、サッカー・バスケットボールの開催が決定している。

課題

- ・ 現在、定期的で開催している国際的な大規模スポーツイベントの継続開催
- ・ 障がい者スポーツを含めた生涯スポーツ振興、関連イベントの誘致・開催
- ・ 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の円滑な開催支援とスポーツレガシーの構築
- ・ 合宿・キャンプに必要な競技施設と滞在施設の充実

(2) 施策展開にあたり取り入れたいスポーツ・トレンド

スポーツ界のトレンドを積極的に取り入れ、スポーツ先進都市としての価値を高めながら、国際スポーツタウンを実現していく。施策展開に取り入れたいスポーツ・トレンドは次のとおりである。



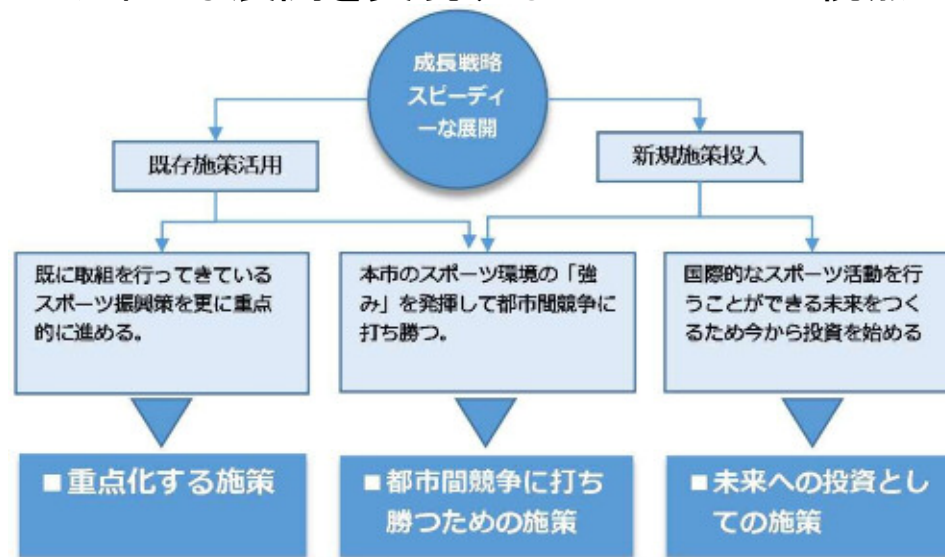
第4章 実現に向けた施策展開

(1) 施策の体系

○ 施策展開の2つの柱

- 国際的なスポーツイベントの開催等によるシティセールス
- スポーツ環境の整備による海外からの来訪者獲得

○ スピーディーな展開を実現するための3つの視点



(2) 施策の内容

施策の体系に基づく「さいたま市国際スポーツタウン構想」実現に向けた施策を以下の表のとおり整理する。

柱 \ 視点	重点化する施策	都市間競争に打ち勝つための施策	未来への投資としての施策
国際的なスポーツイベント開催等によるシティセールス	<ul style="list-style-type: none"> ●国際的なスポーツ競技大会・イベントの誘致・開催による効果的な情報発信によるブランディングの展開〔ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム、さいたま国際マラソン、さいたまシティカップ等の継続開催等〕 【基本方針①②⑤に対応】 	<ul style="list-style-type: none"> ●国際的なニューススポーツの普及定着〔インディアカ等レクリエーション系スポーツ、パデル、3×3等新たな競技スポーツ〕 【基本方針②に対応】 ●2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたオリンピック・パラリンピックムーブメントの推進支援やレガシーの構築 【基本方針①③⑤に対応】 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民参加型の大型スポーツ競技大会・イベントの誘致・開催〔ザ・コーポレートゲームズやワールドマスターズゲームズ等〕 【基本方針②③に対応】 ●MICEと連携したスポーツカンファレンス、セミナー等の誘致・開催 【基本方針④⑤に対応】
スポーツ環境の整備による海外からの来訪者獲得	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツボランティアの充実〔スポーツボランティアバンク制度の拡充、語学ボランティアの充実、子どもによるスポーツアンバサダー制度の推進〕 【基本方針③に対応】 	<ul style="list-style-type: none"> ●さいたまスポーツコミッション(SSC)の拡充強化〔スポーツコミッションのあり方検討、組織強化、自立化検討〕 【基本方針①②④に対応】 	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ拠点となる(仮称)さいたまスポーツシューレの設置〔「スマート・ベニュー」の考え方、障がい者スポーツ対応、マルチサポートハウス機能検討〕 【基本方針①②③⑤に対応】

■まとめ 国際スポーツタウン構想の推進に向けて

さいたま市成長戦略は平成34年を目標年度としているが、「国際スポーツタウン」はその後も続く取組であり、本構想で検討された内容は、スポーツを生かし発展し続けるまちづくりの、長期的プランの第一歩となるものである。

本構想に掲げた施策を着実かつ戦略的に遂行することで、世界のスポーツ関係者から注目され、トップアスリートをはじめとする多くのスポーツ愛好者が集う、「国際スポーツタウン」を実現した後も、進化を続けるスポーツ界のトレンドやニーズに応じながら、さいたま市は、世界が認める「日本一のスポーツ先進都市」として、成長の先を見据え常に他都市をリードしていく。